

【22_085/技術系メルマガ】『理論』と『実践』の溝を埋めて『使える技術』にする

〇〇さん

こんにちは！クロガキです。

今日は朝から最近の寒暖差にやられ、軽く風邪引いた子供らを病院に連れてからの
水族館～喫茶店でアイス のコンボを決めるスケジュールで週末スタートしました(笑)

最近週末は天気が悪いので、外で遊べないストレスもあってか

妹者が特に終始ご機嫌ナナメなものも困ったものです。。。

さて、今週はボラのわりに仕掛けづらい値動きが多かった感じですが

1週間の結果をまとめると2勝1分、利回り16.7%でした(月間累計48.4%)

今週は例月の平均を上回ってますので、ボラに助けられているんだろうなという印象ですね。

▼今週のトレード結果一覧▼

1. GBPAUD(L) 建値

https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1506057643554897922?s=20&t=Lr1Ng8wrVslI88aAE_pN5g

2. GBPUSD(S) +22pips

https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1506549118927503361?s=20&t=Lr1Ng8wrVslI88aAE_pN5g

3. GBPAUD(L) +33pips

https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1506880216001818625?s=20&t=Lr1Ng8wrVslI88aAE_pN5g



■ 『理論』をそのまま覚えても『技術』にはならない

ダウ理論、グランビル則、エリオット波動など、テクニカル分析の“理論”というのは

調べるとたくさん出てくるし、YouTubeやブログ、Twitter等を介して解説している人もたくさんいます。

実際、僕のトレードも【目線固定】から【セットアップ】に至るまで

用いているテクニカルを要素を挙げるなら

- ・ダウ理論(主にトレンド判断と水平線引き)
- ・グランビル(MAに対する値動きとの相関⇒短期足のセットアップ)
- ・エリオット波動(4、5波は使わない。主にタイミングどりのための③波理論)

まとめると大体この3要素になります。

ですが、実戦として用いている考え方が本来の(教科書的意味での)理論とは

異なる使い方をしているものも結構あります。

例えば、エリオット波動。

本来の原理・理論をしっかりと読み込んだことがある人から見ると

僕が セットアップ として実践している『③波理論』は、本来のエリオットの「3波」とは認識が違う点もあると思います。

ですがそれを、「本来の定義と違う」と指摘するのは筋違いで

【理論をそのまま実戦にあてはめても使いものにならない】からこそ、十分な検証母数を集めたうえで

『実際の相場』に対する認識に合わせた使い方を考えないといけません。

それが、僕の考える『理論』と『実践』の溝です。

テクニカルを取っ掛かりを掴むために、まず理屈から入るというアプローチ自体は間違いではないのですが

それを実戦で用いるにあたっては、実際の相場に合わせたアレンジが必要になります。

実際どのようにアレンジするのか？という輪郭を決める作業のスタートが、過去のチャートから事例を見て『検証母数』を集めること。

そして、そこから得られた仮定に沿って組んだルールを『フォワードテスト』によってパフォーマンスチェックする。

これが、インプットとアウトプットの複合作業と言い換えることもできます。

相変わらず面倒な提案しかしない奴だなあと思われるかもしれませんが、この面倒な作業を乗り越えて

『自分のサイコロ』を作った人から結果を出せるようになります。

根気強くコツコツと頑張ってください。